

# 13年の兵庫・宝塚市役所放火 犠牲者ゼロ

## ビル火災 排煙窓が「命綱」

一酸化炭素（CO）中毒で多大な犠牲が出た大阪・北新地のビル放火殺人事件では、現場のビルに排煙設備を取り付ける義務はなく実際になかった。2013年の兵庫県宝塚市役所で起きた放火事件でも同様にガソリンに引火されたが、死者は出なかった。天井近くの排煙窓が機能したことも理由の一つとされ、設置に向けた支援が必要との声が上がると。



兵庫県宝塚市役所に設置された排煙窓

### 大阪・北新地の現場 設置なし 専門家 行政補助検討を



「窓開けろ、排煙窓、全部開けろ」。宝塚市役所1階で背丈以上の赤い炎が燃え盛る中、叫び声が上がった。市が制作した事件の

「窓開けろ、排煙窓、全部開けろ」。宝塚市役所1階で背丈以上の赤い炎が燃え盛る中、叫び声が上がった。市が制作した事件の

ガソリンの入った瓶に火を付けて投げるなどし、1階の約1442平方メートルが焼損した。屋内にいた市民52人と職員642人は約30分で避難した。男は職員2人にやけどなどを負わせたとして、殺人未遂罪などで懲役18年の刑が確定した。広いバルコニーが避難経路になり、窓の上部にあった排煙窓は煙の放出に役立つとされる。平時は換気に利用されており、職員が迅速に開放。濃度が高いと死亡する場合もあるCO中毒を回避できた。報告書は排煙窓について「重要な設備であることを再確認した」と評価。市は事件後、排煙窓をハンドル式からボタン式に順次更新し、消防訓練の際に操作手順を確認するようになった。

大阪・北新地の事件では25人が犠牲になり、24人がCO中毒、1人がCO中毒に伴う蘇生後脳症で亡くなった。宝塚市役所での放火を検証した兵庫県立大学の室崎益輝教授（防災計画）は既存不適格のビルは各地にあるとし「合法だから安全で放置している、という発想を変えることが重要。行政による設置費用の補助も検討すべきだ」と話した。

宝塚市役所での放火を検証した兵庫県立大学の室崎益輝教授（防災計画）は既存不適格のビルは各地にあるとし「合法だから安全で放置している、という発想を変えることが重要。行政による設置費用の補助も検討すべきだ」と話した。

提供)

兵庫県宝塚市役所の排煙窓から放出される黒煙

2013年7月(宝塚市)